

3. 流域の社会条件

3-1 人口

常呂川流域は、オホーツク地方最大の中核都市である北見市を擁し、置戸町、訓子府町からなる。流域関係市町の総人口は平成 17 年で 138,926 人で昭和 28 年からの推移は表 3-1のとおりであり、約 19%の増加となっている。しかし、市町村別の推移では中心である北見市の人口は昭和 28 年に対し平成 17 年は約 1.4 倍となっており、中核都市としての性格をもっている一方、置戸町・訓子府町の人口の流出は大きく、昭和 28 年に対し平成 17 年は置戸町で約 30%、訓子府町で約 53%となっている。

北見市は平成 18 年 3 月に北見市、留辺蘂町、端野町、常呂町が合併したため合計値とした。

表 3-1 流域内人口

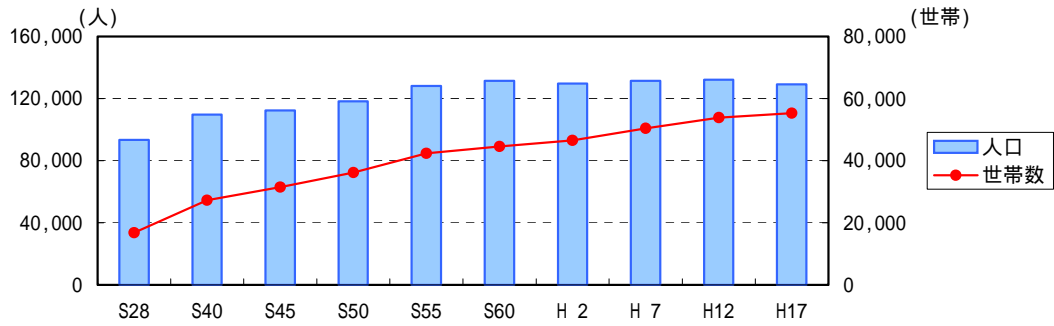
区分	北見市	訓子府町	置戸町	1市2町合計
面積 (km ²)	1,427.56	190.89	527.54	2,145.99
総人口 (人)	129,246	5,981	3,699	138,926.00
世帯数 (世帯)	55,293	2,040	1,455	58,788.00
人口密度 (人/km ²)	90.5	31.3	7.0	64.7

1 面積の出典：平成17年北海道市町村勢要覧（平成15年10月1日）

2 総人口、世帯数の出典：平成17年国勢調査（平成17年10月1日）

3 北見市・留辺蘂町・端野町・常呂町は平成18年3月5日に北見市として市町合併

北見市



- 1 昭和31年に相内村が北見市に編入されているため昭和28年は相内村を含むデータとした
- 2 平成18年3月に北見市、常呂町、端野町、留辺蘂町が合併。
データは1市3町の合計で作成した。

図 3-1 北見市の人口・世帯数の推移

(出典：国勢調査)

訓子府町

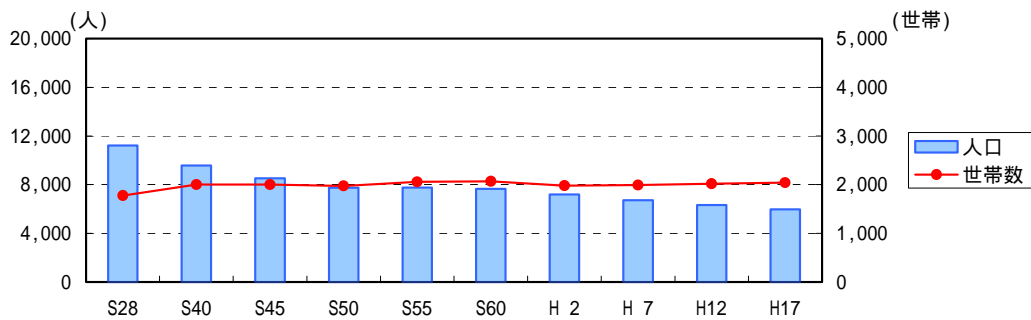


図 3-2 訓子府町の人口・世帯数の推移

(出典：国勢調査)

置戸町

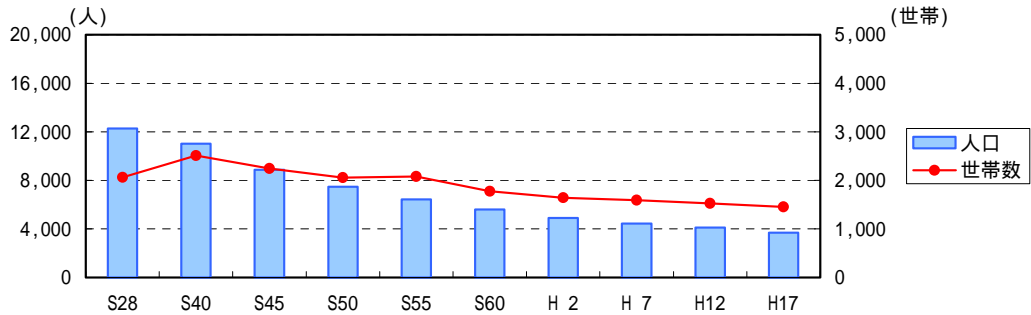


図 3-3 置戸町の人口・世帯数の推移

(出典：国勢調査)

全体

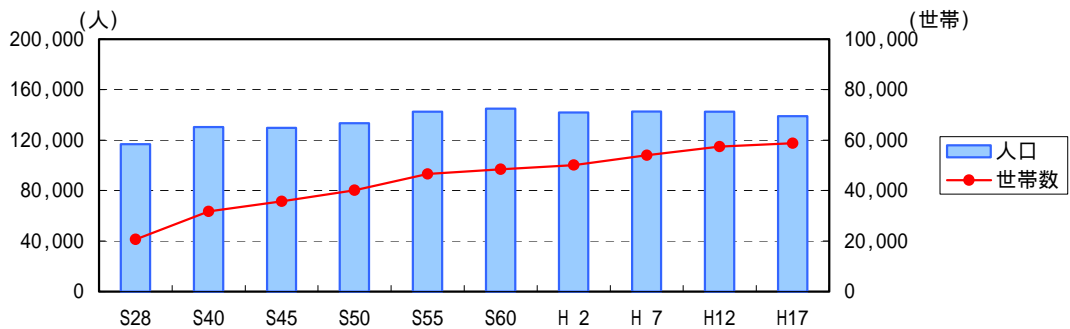


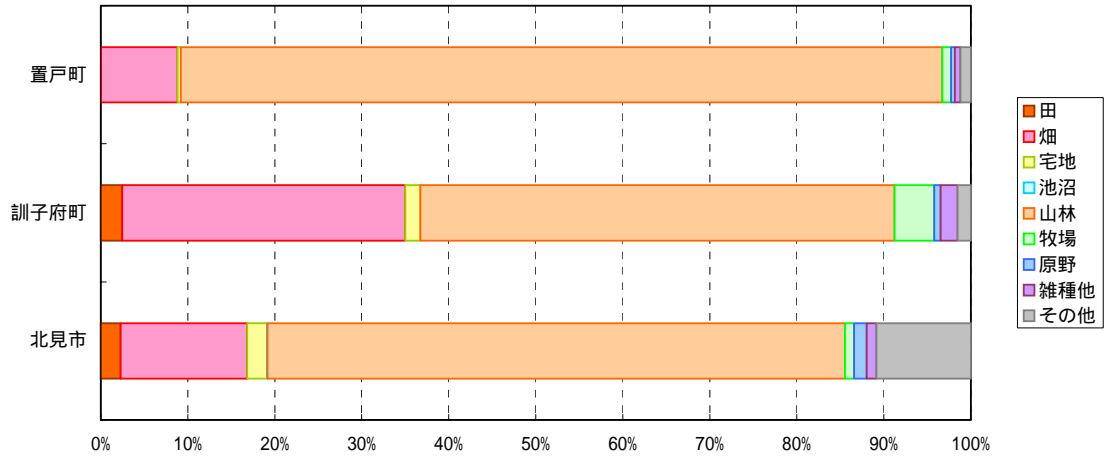
図 3-4 流域関係市町村の人口・世帯数の推移

3-2 土地利用

流域関係自治体の土地利用の状況は、以下のとおりであり、総面積 2145.97km² のうち山林の占める割合が約 71%で最も多く、続いて農用地の約 17%となっている。

山林は上流の置戸町で総面積の 90%弱に対し、中流域の訓子府町は約 54%、北見市では約 66%となっている。

農用地のうち、水田は各市町村ともに保有しているが、その比率は小さく大半が畑作地、草地である。また、北見市は人口が集中しており、宅地の比率も高くなっている。



平成18年3月に北見市、常呂町、端野町、留辺蘂町が合併。データは1市3町の合計で作成した。

出典：平成17年北海道市町村勢要覧（平成15年1月1日）

図 3-5 流域自治体の土地利用状況(H15年時点)

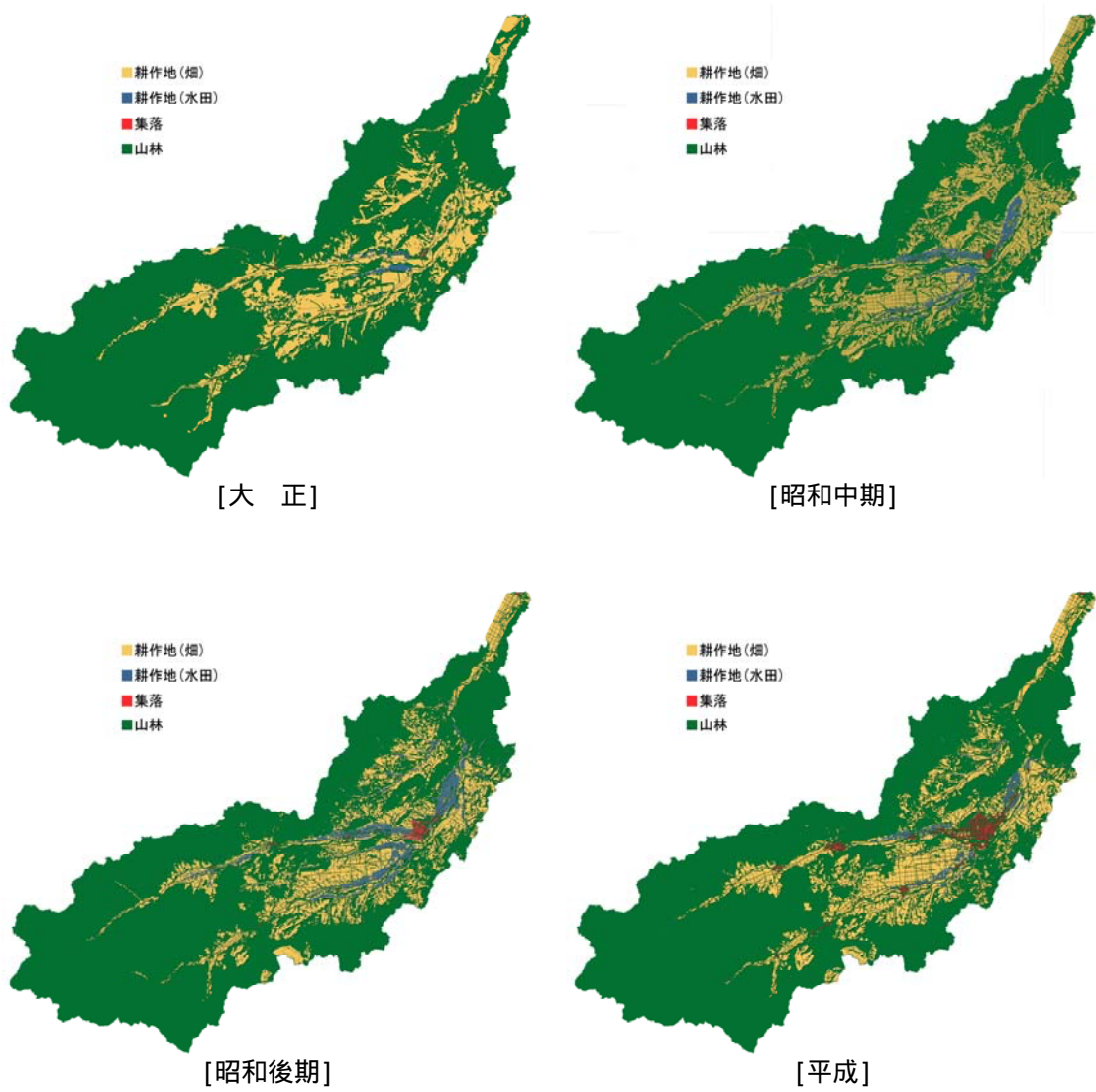
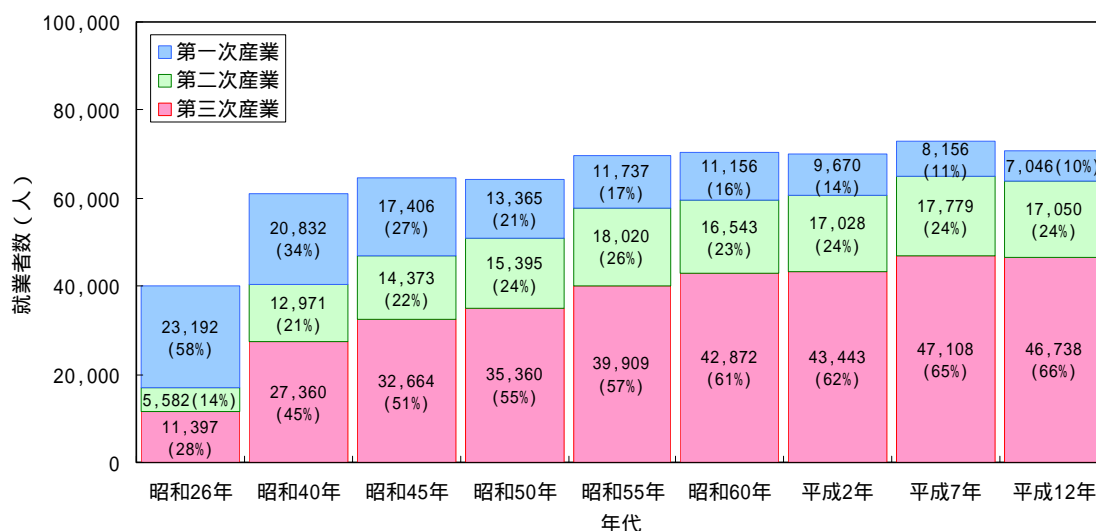


図 3-6 土地利用の経年変化

3-3 産業・経済

流域関係自治体の産業別就業人口の推移を見ると、産業は農林業を主体とし、河口では漁業も盛んであったが、近年の第一次産業の衰退により、第一次産業人口が昭和26年に比べ平成17年では23,192人から7,046人と約30%減少しているが、第二次産業が約3.1倍、第三次産業が約4.1倍と高い伸びを示している。

現在、第一次産業就業人口を市町村別で見ると、置戸町、訓子府町で比較的高く28%と39%となっているが、流域関係市町村における3市合計の第一次産業就業人口の比は8%程度である。第二次産業就業人口は各市町村とも19%から25%程度となっており、第三次産業就業人口は北見市で比較的高く、68%程度となっている。その他の町でも42%から53%程度と高い比率を占めている。



昭和31年に相内村が北見市に編入されているため昭和26年は相内村を含むデータとした

(出典：北海道市町村勢要覧)

図 3-7 産業3部門別就業者数の推移

表 3-2 産業別就業人口と構成比

(単位:人)

市町	区分	第一次産業人口	第二次産業人口	第三次産業人口	総数
置戸町		573	407	1,085	2,065
		27.8%	19.7%	52.5%	100.0%
訓子府町		1,374	658	1,478	3,510
		39.1%	18.8%	42.1%	100.0%
北見市 2		5,099	15,985	44,175	65,259
		7.8%	24.5%	67.7%	100.0%
全道		217,908	602,859	1,881,089	2,701,856
		8.1%	22.3%	69.6%	100.0%

1 出典：平成17年北海道市町村勢要覧 (平成15年10月1日)

2 平成18年3月5日に北見市、常呂町、端野町、留辺蘂町が合併

3 下段は構成比率(%)

3-4 交通

産業への基盤となる幹線交通系統のうち道路網は、旭川市から北見市の無加川沿いを経て網走方面に通じる国道 39 号、網走市から稚内市に至るオホーツク海沿いを結ぶ国道 238 号、北見市から佐呂間町、旭川方面に通じる国道 333 号、生田原方面から北見市、置戸町を通り、帯広方向に通じる国道 242 号があり、オホーツク海沿岸の各都市間と道内各地を結ぶ交通体系に貢献している。

公共交通網の内鉄道網は、昭和 62 年 3 月に湧網線(網走～中湧別)、平成 18 年 4 月に第 3 セクター鉄道ふるさと銀河線(北見～池田)が廃止されたため、現在は道央圏とオホーツク沿岸を結ぶ JR 石北本線(新旭川～網走)の 1 路線があり、オホーツク地方の物資輸送や観光旅客輸送に大きな役割を果たしている。

現在、遠軽と北見および陸別町を結ぶ地域高規格道路整備の計画が進められており、流域のさらなる発展が期待されている。

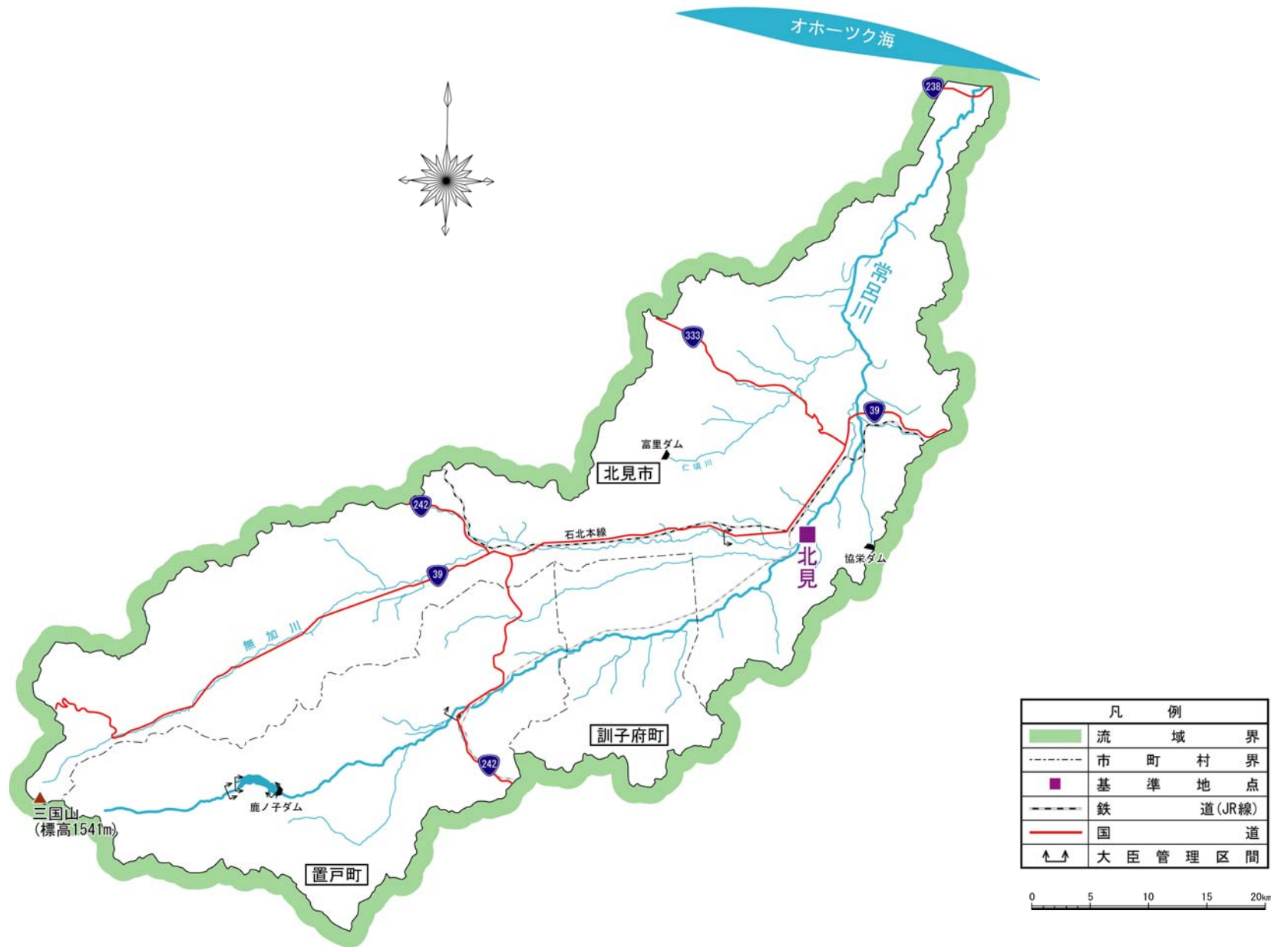


图 3-8 常呂川流域における道路・鉄道網位置図

3-5 関係ある法令の指定状況

3-5-1 第6期北海道総合開発計画

北海道総合開発計画は、行政改革や国際化、地球環境問題への知見の集積等の大きな情勢の変化を受け、地球規模に視点を置いた食料基地、北の国際交流圏の形成、観光・保養基地の形成や北海道が有する美しく雄大な自然環境の保全、安全でゆとりのある生活環境の創造を目的としている。

これらの目的を重点的・効率的に推進してゆくための一方針として広域的・複合的な地域プロジェクトの推進を掲げており、複数の市町村が連携を図り、総合的に取り組むプロジェクトを支援してゆくものとしている。この地域プロジェクトの中には、河川事業に直接あるいは間接的に関連するものも少なくない。

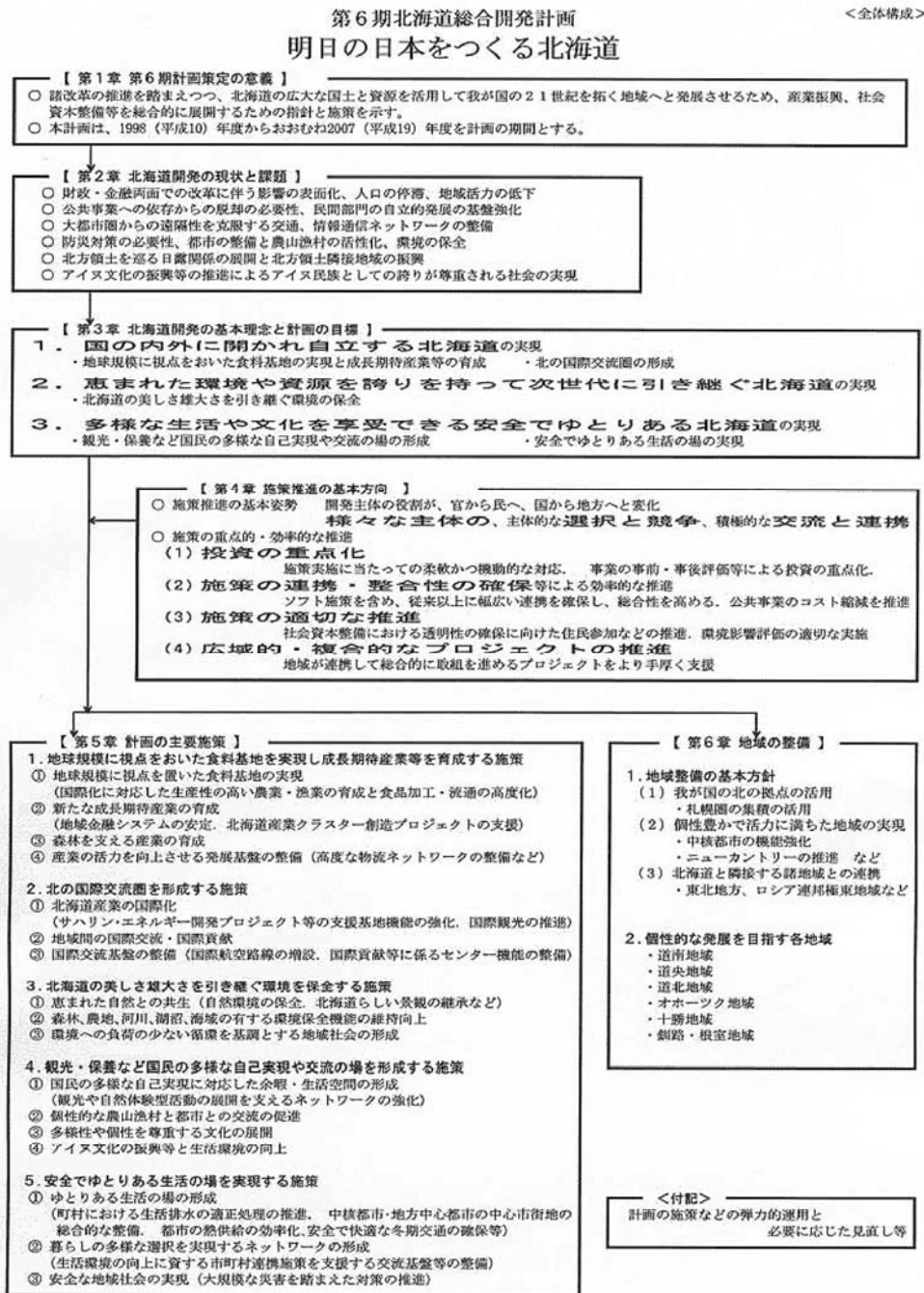


図 3-9 第6期北海道総合開発計画

(出展:北海道局 HP)

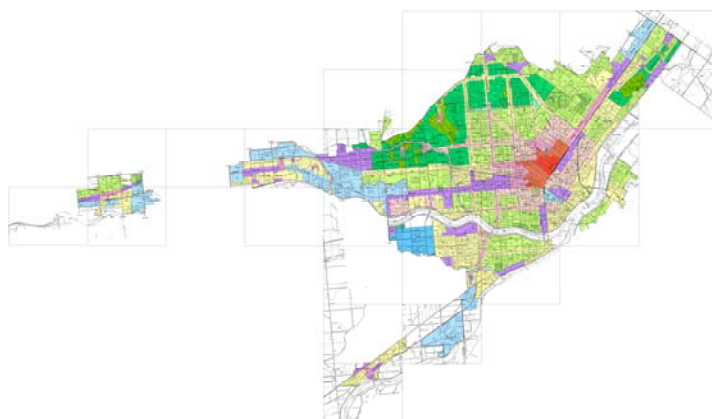
3-5-2 都市計画

常呂川流域の市町村は、北見市・訓子府町・置戸町の1市2町となっている。常呂川流域の上下流に渡って位置する北見市は、北見市街と留辺蘂地区、温根湯地区の合計16,434haが都市計画区域に指定されている。

北見市街は、常呂川及び無加川を中心に北見盆地に形成された市街地であり、15,405haが都市計画区域に指定されている。用途地域は、北見駅周辺の中心市街地を配置しその周辺を一般市街地とし、北光社地区と東相内地区から北見市街西部に工業系の土地利用が配置されている。

留辺蘂地区、温根湯地区は無加川に沿って形成されており、1,029haが都市計画区域に指定されている。

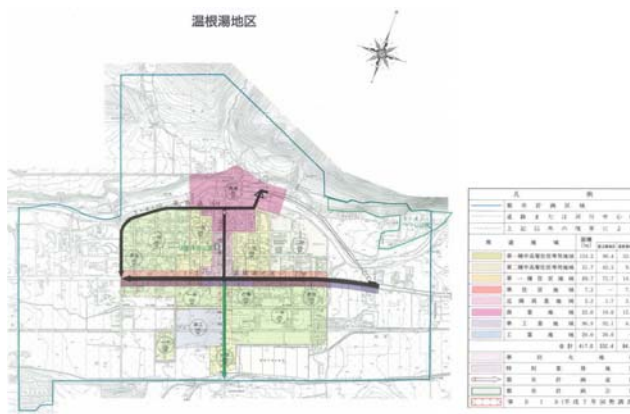
なお、訓子府町・置戸町は都市計画区域が指定されていない。



北見市街都市計画図



留辺蘂地区都市計画図



温根湯地区都市計画図